

NITSカフェ報告書	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院
	セミナー名：【NITSカフェ at 熊本大学教職大学院】 新時代の学びを支える ICT による教育改革について語ろう ～GIGA スクール構想を実現する授業改善と学校マネジメント～
	開催日時：令和2年10月10日 午前9時～正午 開催場所：オンライン（Zoom） 参加人数と参加者の属性：80人 学校職員 地方公務員 保護者

テーマ：学校改革が進む中で、学校のアップデートが必要となっている。GIGA スクール構想の実現が目の前に迫っている中、未来を生きる子どもたちがどんな力をつけなければならないのか、実践発表やグループディスカッション、パネルディスカッションを通して考えていく。

内容：1 実践発表①授業レベルでの ICT 活用の方向性

熊本市立西原中学校小崎次郎先生：休校期間中に Zoom を使った中学英語の遠隔授業を行った。この授業に前年度不登校だった生徒も参加する。これからの授業について“English 4skills”の紹介、不登校生徒とつながりをもつために“palstep”を活用している。

熊本市立田底小学校 江良友一先生：休校中の遠隔授業実施、育みたい資質・能力を職員間でワークショップを行いながら共有を進める。実施したことは通信で見える化する。運動会で「児童自ら企画・準備・運営する競技」を提案し、子どもたちが主体となり実行した。

2 実践発表② ICT を核とした学校マネジメントのあり方

熊本市立城東小学校 佐藤俊幸校長先生：マネジメントとは、目標設定からゴールに向けて適切な手段を選択し、実施すること。1年生から6年生まで何をゴールにして目指すのかを明確にすることが重要。国語科での実践を、縦の軸（情報活用能力の育成）を意識して行っている。

熊本市立北部中学校 上野正直校長先生：学校教育目標を達成するために、カリキュラムマネジメントを行った。具体的には学びの地図（教科横断的な見方）の作成、校務分掌の組み直し、教師も子どもも学びの意識改革、教科横断的な視点での資質・能力の育成。アカデミック GPS を使って子どもの学びの伸びを測った。

産山村立産山学園 村上豊優校長先生：学校経営方針を全家庭に配布して、学校経営を行っているコロナ禍においても素早く遠隔授業の環境整備を整えた。ロイロノート、Teams を中心にオンライン学習を進めた。管理職にとって環境を整えるときに大切なことは、「そっと背中を押す」こと。

3 グループディスカッション（テーマ：マネジメントに必要なものは何か）

実践発表を聞き、マネジメントを行うのに必要なものは何かというテーマで、グループごとに話し合いを行った。

4 パネルディスカッション

パネリスト：佐藤俊幸校長、上野正直校長、村上豊優校長 ファシリテート熊本大学教職大学院 前田康裕准教授 これからの学校マネジメントのあり方について3人の校長先生方のご意見を伺いながら進めた。

成果：参加者へは本界全体について5段階で評価してもらった。参加者の77%が5満足、20%が4やや満足という回答であり、極めて高評価を得た。オンラインでの開催ということもあり、関東や中国地方など様々な場所から参加があった。参加者からは、「学校マネジメントの重要性がわかった」「ICT 活用の実際を聞くことができ大変満足であった」「管理職として学校をどのようにマネジメントしていくか、3人の校長の特色がわかって参考になった」という感想を得ることができた。学校教育における ICT の活用と、ICT 活用を核とした学校マネジメントのあり方を参加者全員で考えることができたことは、十分に目的を達成できたと言える。

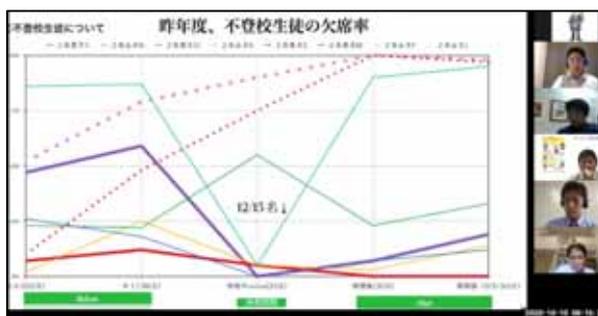
アイデアや工夫したこと：

- ・グループディスカッションにおける人数を4～5人に設定し、一人一人意見発表の時間をできるだけ確保した。
- ・ズームにおける話し合いをスムーズにするために、できるだけ顔を出して話し合ってもらえるようアナウンスした。
- ・疑問や質問等チャットにその都度記録してもらうことで、意見や思いを文字の形に残すようにした。

< 写真・図など >



1 開会：藤中教授挨拶



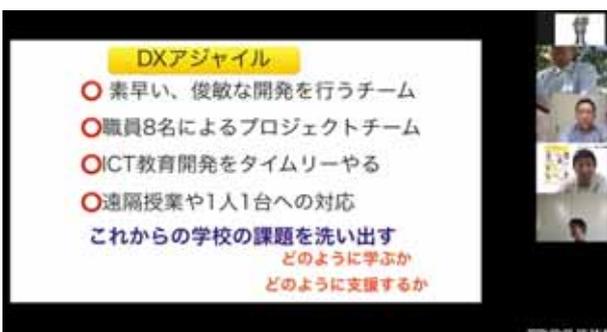
2 発表1 熊本市立西原中 小崎先生



2 発表1 熊本市立田底小学校 江良先生



3 発表2 熊本市立城東小学校 佐藤校長先生



3 発表2 熊本市立北部中学校 上野校長先生



3 発表2 産山村立産山学園 村上校長先生



4 グループディスカッション
ブレイクアウトルームを使用



5 パネルディスカッション
パネリスト：発表された3名の校長先生
ファシリテーター：前田准教授